

いやさか通信

(※「いやさか」とは、「^{さか}栄える」という意味を持つ「^{いやさか}弥栄」を平仮名で表記したものです)

弥栄町の人口(暫定)	年齢	R2.12末(前月比)
	0歳～14歳	488人(0)
	15歳～64歳	2,401人(-2)
	65歳～	1,877人(0)
	合計	4,766人(-2)

書き初めに願いを込めて

弥栄小学校で毎年恒例の書き初め大会が行われ、全児童が取り組みました。1、2年生は教室で鉛筆を使い、3、6年生は体育館で筆を使つて、「将来の夢」「新しい風」など学年ごとに決められた課題を書きました。体育館にお正月の曲が流れる中、子どもたちは心を落ち着かせ一文字ずつ丁寧に筆を走らせていました。

平野向日葵さん(6年生)は「冬休みの間に練習した成果



5、6年生の様子



6年生の作品

を發揮できてよかったです

「『将』を書くのが難しかったけど、上手に書けて良かったです」と話していました。

また弥栄こども園では絵描き初めが行われました。この行事は「絵や字が上手になるように」と願いを込め、その年の干支を墨汁と筆を使って描くもので、毎年正月明けに行われているそうです。

子どもたちは正座をして先生のお話をしっかりと聞いた後、今年の干支である丑の絵を静かに描き始めま



左/願いを込める園児たち
右/真剣な表情で筆を走らせます



した。伸び伸びと筆を走らせ一気に描き上げる子、じつくりと考えながら慎重に描き進める子など、一人ひとり一生懸命に取り組んでいました。

子どもたちは「おうちでも練習してきた。牛は得意だから上手に描けた」「黒いブチが上手に塗れた。牛も大きく描けた」と話していました。作品は2月3日まで弥栄地域公民館にて展示しています。

15日にはどんど焼きが行われ、練習で描いた絵描き初めや正月飾りを燃やして、今年一年間の健康とコロナウイルスの終息を願いました。



園児たちの個性豊かな作品

昔ながらの雪囲い

数年ぶりの大雪となった今冬。野間地域では、雪から家を守るため雪囲いを設置されている家が毎年多くみられます。その中でも藤原さんのお宅では、昔ながらの「オオダレ」を使い、雪囲いをされています。

オオダレとは、乾燥したススキを縄で編んで作る雪囲いのこと。1枚が約2メートル四方の大きさで、1階部分を覆うことで屋根から落ちる雪で窓ガラスなどが割れないよう家を守ります。

藤原さんは「毎年秋に味土野まで行き、ススキを刈り取っています。オオダレはススキの隙間から風が抜けるので、強い風が吹いてもトタンのようにバタバタと音がしないところがいいですよ。丈夫で長持ちするので10年以上使っているものもあります」と話されていました。



丁寧に編みこまれたオオダレ